

16. 看護学部ニュースレターの発行

看護学部では、平成 23 年度から、看護学部学生生活通信『fure-fure』を年 2 回、保護者の皆様に向けて発行している。『fure-fure』とは、学生を応援する気持ちと、学生が誰かを応援できるようになる願いを込めて名付けたものである。学生一人ひとりの学びの過程を教員が見守り、個性を尊重した教育を大切に、人と人とのつながりを大切にする校風の中で、学生が力強く歩んでいる姿、エネルギー溢れる学生生活を伝えている。

令和 2 年度は 9 月に第 19 号、3 月に第 20 号を発行した。第 19 号では、藤田学部長が保護者の皆様への挨拶と、コロナ禍においても進めている看護学部としての「持続可能な開発目標：SDGs」への取り組みについて紹介した。また 6 月に開催した第 25 回日本在宅ケア学会学術集会長を務めた森下教授から、web 上での live 配信にもかかわらず全国から大勢の参加者があったこと、本学在校生も多職種による講演や先駆的な取り組みの報告を通して新たな知の創造に繋がる機会となったことが紹介された。各学年担当からは 4 月から遠隔授業が主体となったなかでも、学生各々が精一杯工夫して取り組む様子が伝えられた。大川教授からは、4 回生の総合実習が学内で行うことが決定して以降、教員が試行錯誤しながら感染予防行動の徹底とオンライン教材を駆使した教育の工夫を行ったこと、また地域災害学生ボランティアセンターの活動内容が紹介された。第 20 号では、コロナ禍における学生支援を中心に、まず本学学生支援部の中山部長より、「学生生活を支える」ために行ってきた学修機会の確保や経済的な諸支援について、さらに健康管理センターの 2 名の保健師の方より、センターが継続して行っている感染予防対策と健康管理についてご紹介いただいた。瓜生教授は、「学びを守る」ハイブリッド型授業の取り組みについて、遠隔授業と対面授業を交えながらの学習環境の具体を紹介した。さらに「つながりを保つ学生の活動」として、1 回生がコロナ禍においても新しく立ち上げた手話サークルの活動を紹介した。各学年の学生生活については、学内演習や対面授業での学習の発表の様子、領域実習の総括、国家試験出発の様子などを学年担当より紹介した。

この学生生活通信が大学からの一方通行にならないように、保護者の皆様からご意見をいただくための連絡窓口のメールアドレスを学生生活通信に掲載し、保護者との連携体制を築いている。今後は、大学のホームページを通じて適宜の学生生活の情報を広く周知していただけるような仕組みへと発展させることを課題と考えている。